竹原市シルバー人材センターだより７月号

★現在募集中の就業情報★

1. 剪定（初心者でやってみたいと思われる方でも大丈夫です）
2. 草刈り希望の方
3. 草とり希望の方
4. 高齢者施設の下膳･シーツ交換･片付け･洗濯たたみ等(女性･ハートフル)･･･夕方 3H

事務局からのお知らせ

★無届就業について

当センターの知らない無届就業により発生した発注者とのトラブルは、すべて自己の責任において解決して頂くこととなります。

万が一、事故が発生した場合はシルバー保険対象外となりますので注意してください。

★熱中症に気をつけて！

室内でも、外出時でも、のどの渇きを感じていなくても、こまめに水分・塩分などを補給してください。

毎日暑い日が続きます。保冷剤･氷･冷たいタオルなどで、からだを冷やし、日陰など涼しい場所へ。無理をせず、休憩をとりながら就業しましょう。

★今年も会員手帳の予約の受付を始めます。

申し込みは、１０月末までに事務所までご連絡ください。☎２２－３３３１

価格は、１冊 ２５０円です。

スマホ操作研修会を開催します

スマートフォン初心者の会員を対象に、電源の入れ方からボタン操作や電話のかけ方など、スマートフォンの操作を学ぶ研修会を開催します。この機会にスマートフォンの操作の基礎を学んでみませんか。

受講希望者は８月２５日（金）までに事務所へお申し込みください。また、お持ちのスマートフォンの機種（アンドロイド又はアイフォン）をお知らせください。

〇研 修 日　令和５年８月３１日（木） ９月７日（木） ９月１４日（木）
９月２１日（木） ９月２８日（木）の 13 時 30 分～15 時 30 分
（すべて同一の内容となりますので、希望日をお知らせください）

〇研修会場　　シルバー人材センター会議室

〇募集人員　　１日８名（５日間で４０名）先着順となります。

		7	9	1	6			
					8	7	1	
1	4	5					8	
9			1				6	
4								7
	6				9			2
	5					6	7	8
	9	6	8					
			6	7	2	3		

				5			8	
	4	7			6			5
	6	5	4		3			1
		2	5	6				
6			8		7	2		
	8	1		2		5		
				7	8		9	
9						8	1	
	7	8						

問題を読んでマスにあてはまる文字を入れましょう。A～D をつなげてできる言葉は？

1 C	2	3		4	5
6			7		
	8			9	D
10 A				11	
12	13				
14				15 B	

A	B	C	D

タテのカギ

1. アーチェリーで使う武器
2. 肉食魚で、海のギャングとも言われる。美味
3. 至極真面目なこと。
5. 人の生き血を吸うという魔物
7 自分の主張や行動をおし通そうとする心
9 常温で固体の脂肪と常温で液体の油の総称
10. 青物屋
13 自由に使いこなすこと.

ヨコのカギ

1. 資金を融通すること
4. 華厳、那智、袋田など
6. 男女がひそかに会うこと
8. イカ･タコが分泌する黒い液体
11. 風雨のために海が荒れること
12. 気おくれした様子。〇〇〇〇もない
14. ひそかに抱く、大きな望み
15. 身の毛もよだつような恐ろしい気配。〇〇迫る情景

答えをご持参の方粗品進呈
８ 月 ２１ 日以降にご持参ください
提出･受取りは会員さん本人に限ります

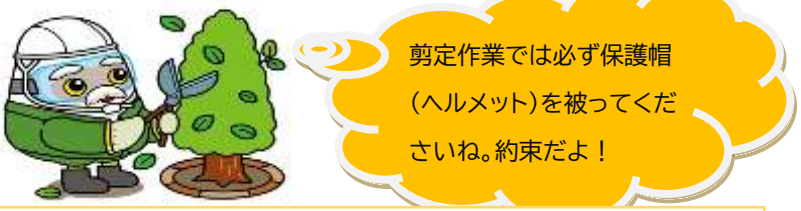
名　前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

№１９４　　２０２３年７月

安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会

今月の事故　№1



１．事故の概要（就業中）（30 日以上の入院）

個人宅庭の山桃の木を三脚の上に登りチェンソーを使用して枝を切ったところ、枝が体に接触しバランスを崩し約２．５ｍの高さから転落し骨盤骨折、肋骨にひびを負った。

２．事故の原因

足元が不安定な三脚の上でチェンソーを操作したこと。
墜落制止用器具（安全帯）の未装着

３．事故後のセンターの対応及び再発防止策

【センター】

定例理事会において事故状況及び経過等について報告した。
安全・適正就業委員会において事故状況及び経過等について説明を行った。
事故状況等を記載したチラシを作成し、速報として該当する会員に配付した。

【連合本部】

高さが３ｍある中での作業にも関わらず墜落制止用器具（安全帯）の装着がされていない。全会員に周知するよう指導。

脚立を使用する枝切り依頼が来た場合、チェンソーを使用しての作業については、十分な検討を行い安全上問題がある場合は受けないよう指導。

４．全シ協から

今年度、３カ月経過し、重篤事故は昨年度に比べ５件の増加、１か月以上６か月未満の事故も１２件の増加となっておりあらゆる分野で注意が必要です。

やはり、繰り返しとなりますが、重篤につながる剪定作業での事故について取り上げさせていただきました。

今回の事故は、足元が不安定な状態でチェンソーを用いて作業を行ったことが原因と考えます。この事故は、骨盤の骨折、肋骨のひびで事なき得ましたが、昨年、キックバックを起こし亡くなられた事例があり、一歩間違えれば大変なことになります。自分だけは、大丈夫だという誤った考え方は捨てていただき、安全を第一に作業に当たってください。

脚立等の上では、チェンソーを用いて木の枝の切断及び木の枝などを押したり引いたりするなど、動作に反動がかかる作業は、やめてください。

また、保護帽（ヘルメット）の装着、また、脚立・足場板を使用する場合は、墜落制止用器具（安全帯）も必須です。

地面同様の環境が確保できない場合のチェンソーの使用※や、墜落制止用器具（安全帯）の装着が難しい場合、請け負うことはしないでください。

※安全就業の手引　第六改訂版　Ｐ１５２～１５８をご参考にしてください。

今月の事故　No.2

1．　事故の概要（30 日以上の入院）

【階　段（段差）での事故】

【就業中】１件

❶　除草作業中に段差のある場所で作業していたところバランスを失い転倒して下の段に落ち頸椎２本を骨折した。

【途　上】２件

❷　帰宅途上、駅の乗換えの階段で足を滑らせ転落し、左足大腿骨転子下を骨折した。

❸　就業先へ行くため両手に荷物を持って集合住宅の階段を下ろうとしたところ転倒して階段を転落した。その際、頭部を打ち意識を失う。頭蓋骨骨折・硬膜下出血等。

2．事故の原因

❶後ろ向きで作業していたこと。

❷普段、使用しない階段で、手すりも設置されていなかったこと。

❸階段では両手が使えない状態で、足元をよく確認していなかったこと。

3．全シ協から

❶のように就業中とくに除草作業や清掃作業中に階段（段差）から転落する事故はとても多く、重篤事故にもなっています。階段での作業や❷❸途上で階段を使用する際は、前方や足元が見えなくなるような荷物の持ち方をしないよう気をつけ、後ろ向きでの作業は行わないなど（下から上への作業、手すりにつかまっての作業等）特に気をつけましょう。

また、清掃作業は、下向きの作業が多く周りへの注意が疎かになるため、作業前に段差や片付けていないところ、濡れていないか、照明の明るさなどの状況を確認するよう徹底してください。安全が確保できない場合（急な階段など）はお断りしてください。

さらに、複数人での作業体制（事故を重大化させるリスクの低減）や段差があるところではヘルメット等を着用することもご検討ください。

就業中・就業途上に関わらず階段（段差）を上り下りする際は、急がず、慌てず、走らずに、手すりをしっかりと持って、足元をよく見ながら、ゆっくりと上り下りをするようにしましょう。

また、携帯電話を操作しながらの階段（段差）の上り下りをするはやめましょう。

草刈機での飛び石事故が多発しています。人に当たってしまったら大変ですよ。必ず飛散防止ネットを設置して作業してくださいね。

令和５年６月（令和５年度）事故速報

（1） 重 篤 事 故

６月は、３件の重篤事故の報告がありました。
就業中・就業途上別にみると、就業中の事故は１件であり、令和４年度の３件と比して１件の増加となっており、また就業途上は、前年度と比して４件の増加となりました。

６月報告分までの累計

令和5年度累計	就業中・就業途上	件数	内訳				令和４年度同月累計					
			事故の程度		性別			計	事故の程度		性別	
			死亡	入院	男性	女性			死亡	入院	男性	女性
	就業中	4(1)	1(1)	3(0)	4(1)	0(0)	就業中	3	3	0	1	2
	就業途上	4(2)	3(2)	1(0)	2(2)	2(0)	就業途上	0	0	0	0	0
	計	8(3)	4(3)	4(0)	6(3)	2(0)	計	3	3	0	1	2

（　　）は、当月分報告分

６月報告分内容

No.	性 別等	仕事内容等	事故の状況	安全帽	安全帯	交通手段
6	男 82 歳	就業 （死亡）	庭木の剪定作業中、６尺の三脚から滑り落ち後頭部を庭のセメント舗装部に打ち付け入院後、死亡した。	○	×	―
7	男 72 歳	途上 （死亡）	帰宅途中に倒れ、頭を打った模様。原因は不明。居合わせた人が救急車を呼び搬送、三日後、容態が急変し死亡した。	―	―	徒歩
8	男 83 歳	途上 （死亡）	自転車で帰宅途中、信号のない横断歩道に差し掛かり左からきた車が手前で停止したため自転車で渡っていたところ右からきた直進車の前方不注意によりはねられ死亡した。	×	―	自転車

編　集　後　記

線状降水帯、大雨特別警報、熱中症警戒アラート…耳慣れなかった言葉も、毎日のように聞けば、昔からあったかのように感じます。全国各地で発生する線状降水帯、色々な場所が大雨に見舞われ、そのたびにセンターや会員のみなさまが河川の氾濫や土砂崩れに遭われてないか心配ですし、熱中症警戒アラートが発出されれば、無理に作業されていないか心配で、心配事は絶えません。新型コロナ感染症は第９波には入っていないというのが政府の見方ですが、周りを見れば、感染された方は多数いらして、５類になって、何も把握できていない、していないのではと思ってしまいます。西日本も、東日本もそろそろ梅雨明け、そうなるといよいよ熱中症対策が必要です。毎年この時期に注意喚起していますが、作業中の熱中症予防にはこまめな水分補給と塩分の摂取・適度な休憩とのこと。しかし、熱中症に効くというＯＳ１を飲み過ぎると塩分過多で高血圧、ポカリスエットのようなものを飲み過ぎると糖分過多で糖尿病になる可能性があるので注意が必要とのこと。この暑い夏に作業をされるみなさまは、今一度、このことを思い出し、一人ひとり意識し、声を掛け合い、暑さに強いカラダで熱中症を防ぐとともに新型コロナ感染症のリスクもできるたけ減らすようにしてください。（松山）

久しぶりに会ったあの人、ドラマに出てきた俳優さん、顔はわかるけど名前がでてこない。私の親がよく「あれ、それ」と言っているのを聞き、まさか認知症の始まりでは？と不安になりつつ数年経過しましたが、今のところ異常はないようです。しかし私自身が会話中に固有名詞がなかなか出てこなくなり、親の気持ちがわかるようになりました。シルバー人材センターの職員さんは多くの会員さんと接しますので、名前を覚えるのが一苦労かと思います。若い職員さんはすらすらと覚えられると想いますが、40 代位になるとなかなか難しい状況ではないでしょうか？相手に顔を覚えてもらえること、そして名前で呼ばれることは、「自分に関心を持ってくれている」と感じることができ、嬉しくなります。他者から認められたい、誰かの役に立ちたい、自分は価値ある存在でありたいなど、誰しも少なからず承認欲求があり、名前で呼ぶということは基本的でありながらとても大切なことだと思います。「その他大勢のひとり」ではなく、「あなたならでは」という敬意も表せます。話しかけるときに意識して名前を呼ぶだけで、コミュニケーションもスムーズになり、相手にささやかな幸福感を与えることができると私は思っています。初対面から名前で呼び合うのが普通の諸外国と違い、日本では親密になって初めて名前で呼ぶことが多いので、人の呼び方で心の距離をある程度測ると「名字＋さん」「名字のみ」「あだ名」「名前＋さん」「名前＋ちゃん・くん」「名前のみ」など一概には言えませんが、名字よりも名前を呼ぶ方が親密の度合いが高いと言えます。皆様も会員さんの名前を覚えて呼び、段階を経て下の名前でも呼べるような、楽しい雰囲気のシルバー人材センターの環境を作っていただけると幸いです。余談ですが、私は学生時代、なぜか周りから「髙木君」と呼ばれることが多く、残念でしたが、たまに喧嘩をしたりすると、いきなり「高木ブー」と言われ、ガッカリしたものです。（髙木）

令和５年度から令和７年度までの全国統一安全就業スローガン

「安全は　無理せず　焦らず　油断せず」